

京都府議会議員

堤 TSUTSUMI

じゅん太

活動報告 冬季号

Vol.18

ごあいさつ

令和初めての年明けを迎えました。今年庚子年。庚(かのえ)は、植物の様子変化する状態を指し、実りや継承を意味します。子(ね)は、十二支の最初の年であり物事の始まりや、またネズミの象徴から多産や富を意味します。庚子は変化が生まれる状態、新たななぎざしが始まる状態なので、全く新しいチャレンジへ適した年です。私も新たな挑戦の年となるよう頑張ります！



今をよくする
未来へつなぐ。

済生会京都府病院の移転整備

京都縦貫自動車道 長岡京ICの機能強化について

● 京都府の見解 ●

- ▶ 京都スタジアムや城陽市のアウトレットなどへの旅客流入が見込まれるので、地元自治体とも連携して新たな路線を誘致して長岡京バス停の利用促進につなげていきたい
- ▶ 事業者負担軽減の観点から高速路線バスを対象に追加負担なしで高速道路から一時退出を可能する料金制度の改善を国に提案していきたい

堤じゅん太の視点

機能強化することで…

- ★ 交通の利便性の向上
伏見/城陽/宇治方面の東西交通
伊丹/関空など空路とのアクセス
- ★ 利用客増加を観光振興へ



12月議会一般質問

京都縦貫自動車道の高速長岡京バス停は平成25年12月の阪急西山天王山駅の開設に伴い整備された鉄道駅・高速バス停留所・路線バス・一般の駐車場が直結した先進的な交通結節点です。

この内、高速バスの利用は平成27年をピークに減少しており、利用者数ではピークの40%、バスの便数では66%まで減少しています。

この状況に対して利用者を増やすために以下の提案を行い、所見を求めました。

- ▶ 伊丹空港や関空行の便など新規路線の開拓について
- ▶ ICの構造により、長岡京バス停に立ち寄るとバスは一度ICを出た後に再度乗り直す必要があり、これが事業者負担増に繋がっている。事業者負担軽減の為に国交省に交通支援策を求め、バス便の増加を図ることについて

新病院建設計画概要

● 背景 ●

済生会京都府病院は昭和58年に現在地に移転して以来36年に渡って、乙訓地域の中核病院として急性期医療を中心に医療活動を行ってきました。

現在、経年による建物の老朽化や狭隘化による医療環境の低下が生じています。また、病院へのアクセス面での利便性が低いことが指摘されています。

更には、高齢社会を迎え地域で看取りを行う慢性期医療を支える基幹病院が求められています。



● 新病院のコンセプト ●

- ・ 乙訓地域15万人の急性期医療を提供する機能的医療機関の役割を今後も継続して行う。
- ・ 「出産」から「看取り」まで地域の医療機関と連携しながら安心・安全の医療を途切れなく提供し、地域包括ケアの整備を進めて暮らしやすく活力ある地域発展に貢献する。
- ・ 災害発生時の地域災害拠点病院としての機能を充実させる。

整備スケジュール(予定)

実施設計	令和元年9月～11月末
着工	令和2年5月
竣工	令和4年5月
移転	令和4年度

注目